

御嶽山 平成 17 年（2005 年）年報

○平成 17 年の概況

火山活動に変化はなく、静穏に経過しました。

○火山情報

火山情報の発表はありませんでした。

○地震及び微動の発生状況

御嶽山山体付近を震源とする地震の発生回数は少なく、静穏に経過しました（図 1）。

火山性微動は観測されませんでした。

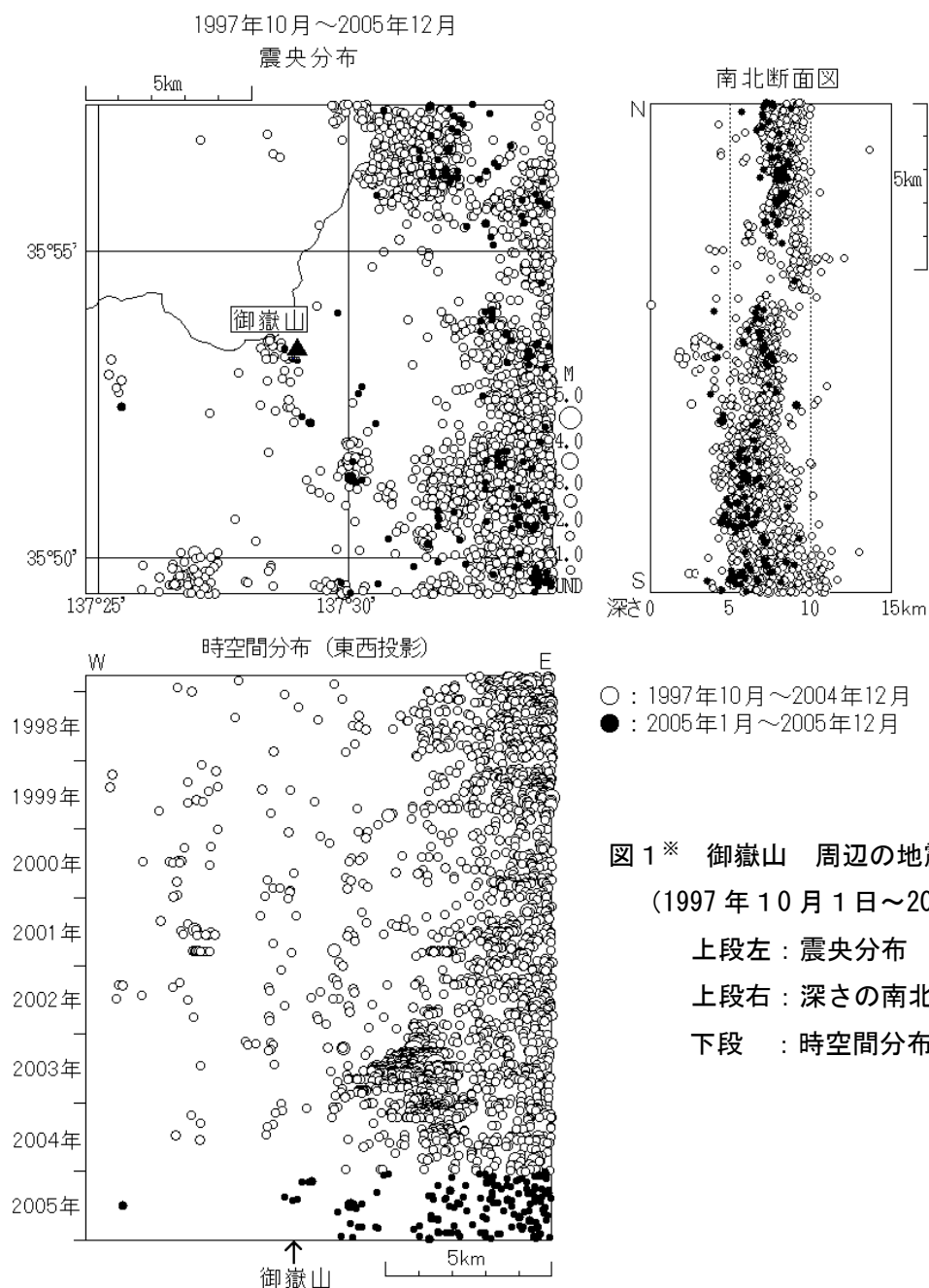


図 1※ 御嶽山 周辺の地震活動
(1997 年 10 月 1 日～2005 年 12 月 31 日)

上段左：震央分布

上段右：深さの南北断面

下段：時空間分布（東西投影）

※この資料は気象庁のほか、東京大学、京都大学、名古屋大学及び独立行政法人防災科学技術研究所のデータ等も利用して作成しています。

○噴煙の状況

三岳黒沢（王滝頂上の南東約14km）に設置した遠望カメラでは、王滝頂上付近及び地獄谷からの噴煙は観測されませんでした（図2）。

2005年8月に実施した調査観測では、王滝頂上噴気地帯の噴気活動は、2004年8月の調査観測時と比べて特段の変化は認められませんでした。王滝頂上噴気地帯では、硫化硫黄臭を伴う白色の噴気が、数十mの高さまで上昇していました。地獄谷の噴気は、悪天のため確認できませんでした。

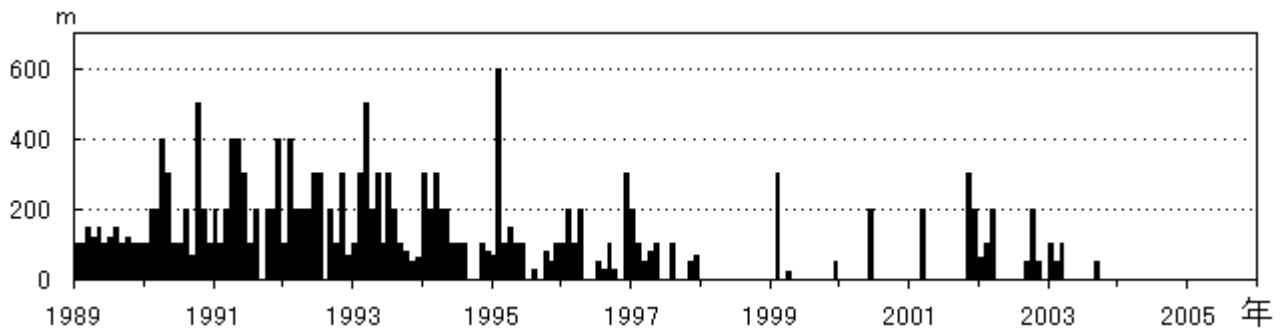


図2 御嶽山 月別最大噴煙高度（1989年1月～2005年12月）

○熱の状況

2005年8月に実施した調査観測では、御嶽山王滝頂上噴気地帯の噴気温度は約90℃でした。噴気温度は、観測開始から1990年代前半までは120℃前後でしたが、その後は低下し、最近数年間は80～100℃の範囲で推移しています（図3、図4）。

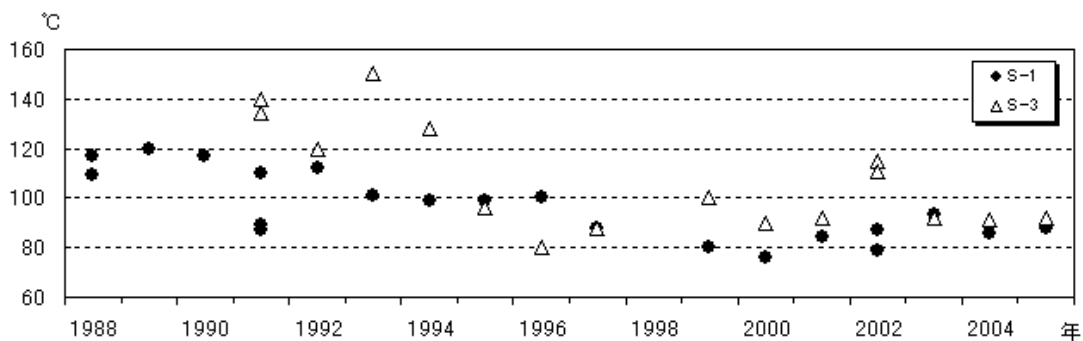


図3 御嶽山 王滝頂上噴気地帯の最高噴気温度（1988年～2005年）

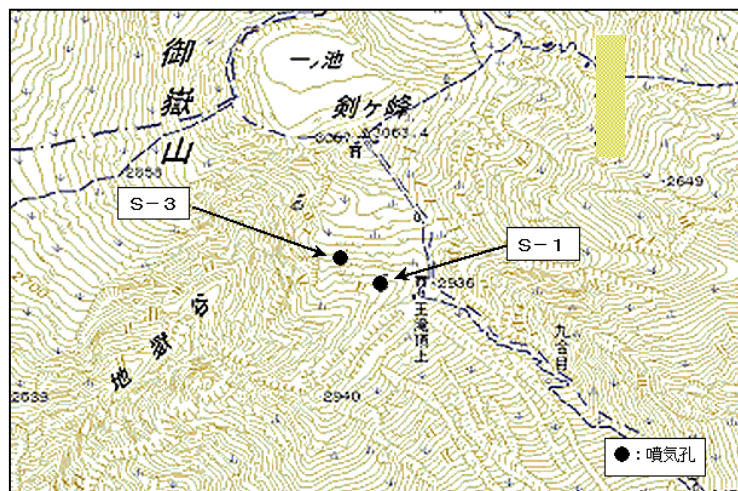


図4 御嶽山 王滝頂上噴気地帯での温度観測地点

○地殻変動の状況

G P S 連続観測および 2005 年 8 月に御嶽山山頂部で実施した G P S 繰り返し観測では、火山活動によるとみられる変化は認められませんでした（図 5、図 6）。

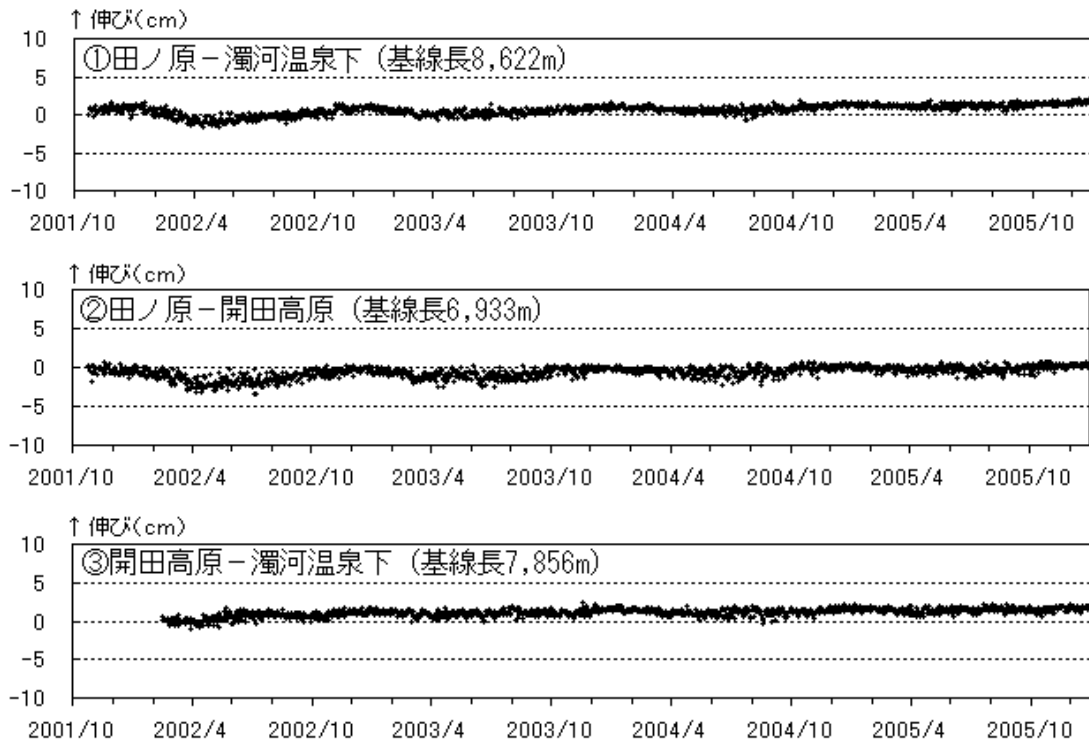


図5 御嶽山 G P S 連続観測による基線長変化（2001 年 10 月 23 日～2005 年 12 月 31 日）
基線長変化に見られる冬季の伸びと夏季の縮みの傾向は季節変動による変化です。

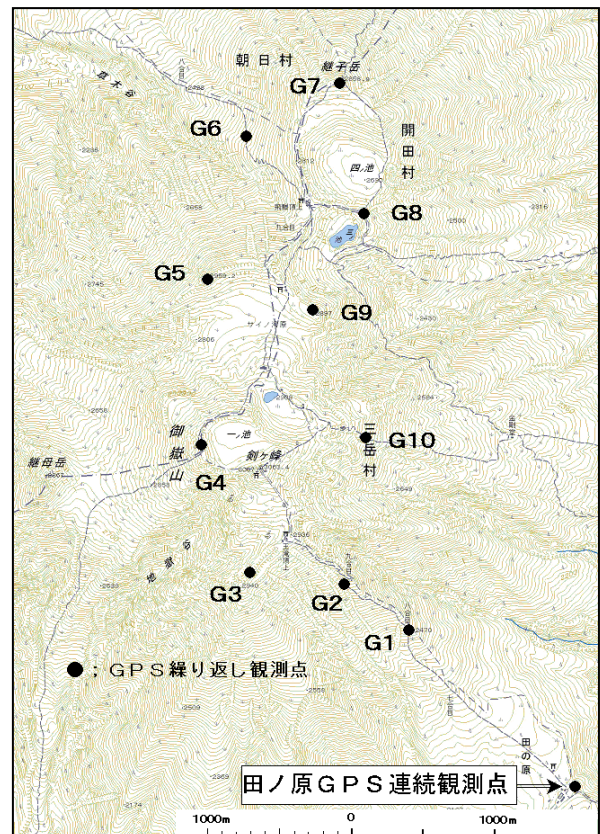
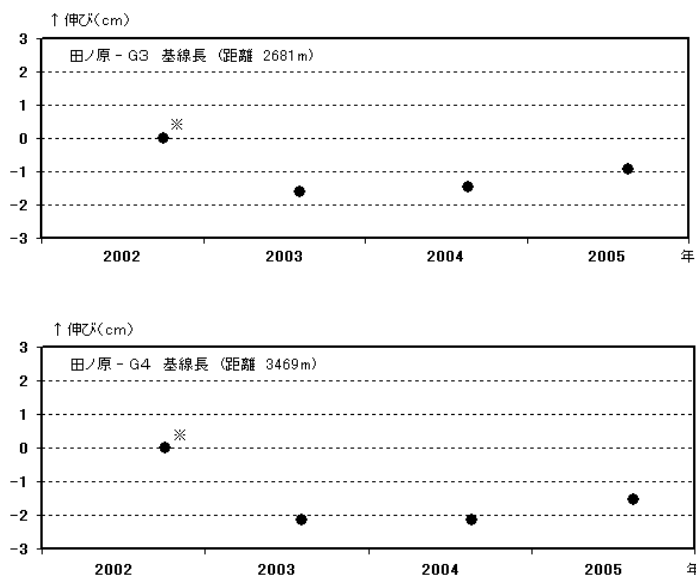


図6 御嶽山 田ノ原-No. 3 の基線長変化（上）、
田ノ原-No. 4 の基線長変化（下）
GPS 繰り返し観測点配置（右）

※2002 年と 2003 年以降にみられる差は季節変動
による影響が大きいと考えられる。

○観測点情報

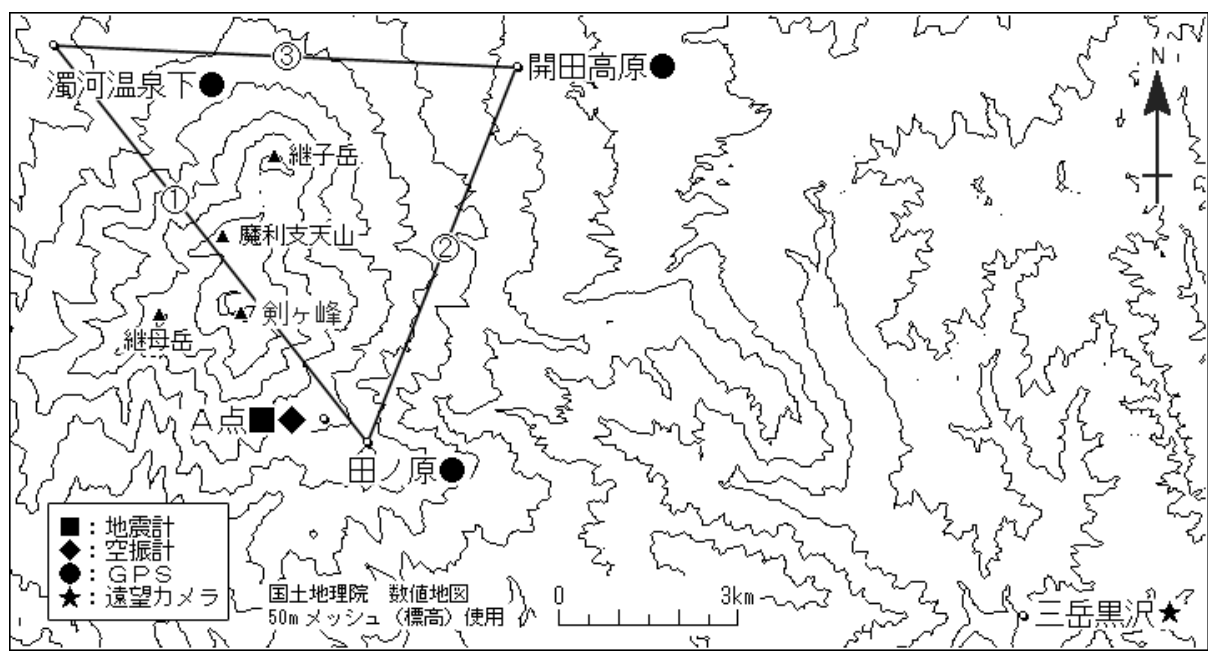


図 7 御嶽山 気象庁の常時観測点配置

表 1 御嶽山 気象庁の常時観測点一覧表

測器種類	地点名	位置			設置高 (m)	観測開始日	備考
		緯度	経度	標高(m)			
地震計	A点	35° 52.61′	137° 29.73′	2228	0	2001. 9.12	短周期 3 成分
空振計	A点	35° 52.61′	137° 29.73′	2228	4	2001. 9.13	
GPS	田ノ原	35° 52.39′	137° 30.21′	2190	6	2001.10.23	2周波
	開田高原	35° 55.86′	137° 31.90′	1612	4	2001.10.23	1周波
	濁河温泉下	35° 56.06′	137° 26.69′	1680	4	2001.10.23	1周波
遠望カメラ	三岳黒沢	35° 50.80′	137° 37.58′	830	10	2001.10.25	高感度(田ノ原搬送器小屋から移設)

注) 2005年11月 1 日の町村合併に伴い、気象庁遠望カメラの観測点名称は従来の「三岳村役場」から「三岳黒沢」に変更した。